

事業報告

平成 27 年度（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

1. 庶務関係

(1) 会員の状況（28.3.31 現在）（ ）内前年同期増減

ブロック	正会員	学生会員
東北・北海道	129 (+5)	4 (±0)
関 東	466 (-7)	44 (+6)
東 海・北 陸	139 (±0)	12 (+5)
近 畿	268 (-5)	21 (-8)
中 国・四 国	137 (-6)	11 (-19)
九 州	130 (+8)	3 (-5)
海 外	9 (+3)	0 (±0)
合 計	1278 (-2)	95 (-21)

団体会員 177 団体、賛助会員 49 団体、名誉会員 7 名、顧問 3 名

(2) 大会の開催

一般社団法人日本調理科学会平成 27 年度大会

平成 27 年 8 月 24 日（月）、25 日（火）静岡県立大学 谷田キャンパス

(3) 研究の奨励及び研究業績等の表彰

学会賞 1 名、奨励賞 1 名、名誉会員 1 名、功労賞 5 名の表彰

(4) 会議の開催

1) 一般社団法人日本調理科学会平成 27 年度代議員総会
平成 27 年 6 月 7 日（日）お茶の水女子大学

2) 理事会 3 回
3) 編集委員会 6 回
4) 情報管理委員会 2 回
5) 学会賞選考委員会 2 回
6) 規程委員会 1 回
7) 刊行委員会 3 回

2. 企画・広報関係

年次大会を中心とした企画・広報を行った。また、6 月 7 日（日）「調理科学に基づいた食べ物の特性とヒトの食べやすさ」神奈川工科大学 高橋智子氏の講演会を開催した。

3. 常置委員会関係

(1) 編集委員会 『日本調理科学会誌』の発行 年 6 回発行 A4 判

第 48 巻 第 2 号 1,800 部、第 3 号 1,800 部、第 4 号 1,800 部、第 5 号 1,750 部、第 6 号 1,750 部
第 49 巻 第 1 号 1,750 部

編集・刊行

①論文投稿状況（27 年 4 月 1 日～28 年 3 月 31 日）

報文 26 編、ノート・資料 15 編、計 41 編

②論文審査状況

平成 28 年 3 月 31 日現在

区分	掲載済	印刷待ち	著者取り下げ	却下	審査・訂正中	計
25 年度投稿	32	1	2	2	0	37
26 年度投稿	35	1	6	15	0	57
27 年度投稿	8	11	0	12	10	41

③学会誌 48 巻 2～6 および 49 巻 1 号掲載発行状況

区分	2 号	3 号	4 号	5 号	6 号	1 号	合計
報文	3	1	7	1	0	4	16
ノート・資料	4	4	2	2	4	5	21
総説	0	1	1	1	1	1	5
講座	1	1	1	1	1	1	6
教材研究	1	1	1	1	1	1	6
クッキングルーム	1	1	1	1	1	1	6
トピックス&オピニオン	1	1	1	1	1	1	6
新刊紹介	0	0	3	0	2	1	6
ページ数	96	54	104	51	56	99	460

(2) 情報管理委員会

- ① 情報管理委員会を開催し、ホームページ等の管理、運用を行った。
- ② 平成 27 年度大会演題登録はアトラス社の PASREG を利用して行った。研究発表要旨を J-STAGE にて公開した。
- ③ 学会誌は発行 1 か月後に電子版を J-STAGE にて公開した。
- ④ メールニュース 12 月 2 日号を発行した。アドレスの更新を年度内 2 回行った。

4. 渉外関係

- (1) 日本学術会議協力学術団体として生活科学系コンソーシアムの活動を行った。
- (2) 下記の関連学協会と事業の共催、協賛、情報交換を行った。
 (一社)日本家政学会、日本官能評価学会、日本家庭科教育学会、日本食生活学会、(社)全国調理師養成施設協会、食品の物性に関するシンポジウム、日本熱測定学会、日本高圧力学会、日本熱物性学会、
 (一社)日本レオロジー学会、(公社)日本冷凍空調学会、日本食品・機械研究会、(公財)不二たん白質研究振興財団、食品ハイドロコロイド研究会、(財)日本食生活文化財団、その他の学協会

5. 研究委員会関係

- (1) 災害時のメニュー開発に関する研究委員会は、「根菜類の簡易メニュー」の冊子を作成し、各支部に配布し、厚生労働省と自治体に贈呈した。市川朝子委員長が今年度で退職となるため、平成 28 年度から委員長を石井克枝氏に交代する。
- (2) 次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理研究委員会は、平成 26 年度報告書を作成した。本学会と農山漁村文化協会は「次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理出版契約書」を平成 27 年 6 月 22 日に取り交わした。刊行に携わる「家庭料理編集委員会」(委員長：中澤弥子氏)を発足した。学会誌 49 巻 1 号の「クッキングルーム」を担当した。
- (3) 加熱調理研究委員会は、オープン加熱における余熱利用に影響を及ぼす諸要因について研究活動を行い 2 報の報文にまとめた。大会時に勉強会(講演：題目「加熱調理における熱・物質移動と成分変化の解析」)を開催した。なお、当委員会は本年度をもって活動終了とする。以前行った過熱水蒸気に関する共同研究を、日本調理科学会誌に報文として投稿する準備中である。

6. 支部関係

次ページに掲載